

第7回 大分市自治基本条例検討委員会 グループ討議 第4班議事録

日 時 平成21年7月14日(月)

場 所 大分市コンパルホール 3階 多目的ホール

出席者

【第2班参加委員】

川辺正行、永松弘基、古岡孝信、小林知典の各委員(計4名)

<第7回 大分市自治基本条例検討委員会 グループ討議 第4班>

座長	座長を仰せつかりました、どうぞよろしくお願いいたします。どのように進めていけば良いのかも分かりませんが、全部を討議する訳にもいきませんので、まずは、討議すべき重点項目を絞るための話し合いをしてはどうかと思いますけれども、その前に各自で自己紹介をしたほうが良いでしょうか？
一同	そうですね。
委員	<p>では、順番に私から参ります。市の職員である委員というは、実は、少しやりにくい面がございます。というのは、ひとつは、この条例の制定というのが、市長のマニフェスト項目に挙げられていることから、一職員としては、何とか市長の任期中に形にしなければという使命のようなものがございます。一方で、一個人としては、そうしたものは度外視して、本来の大分市のあるべき姿やそれにふさわしい自治基本条例についてとことん議論をしていきたいという思いもあります。そうした少し複雑な立場の中で参加をさせていただいているわけでございます。</p> <p>既に大分市では、議会基本条例が制定され、また、既に100を超える自治体において、自治基本条例ができている中で、いかにして大分市のこれからのまちづくりを進めればよいのかという議論のなかに、より多くの市民にかかわりを持っていただくことが大切ではないかということ、個人的には強く思っております。</p>
委員	議会の方の建設常任委員長をしております。よろしくお願いいたします。今、お話がありましたように、議会のほうでは、議会基本条例が制定・施行されたところでございますが、この自治基本条例というのは、ある意味では、市の執行部の方の条例ということになるのかなと思っておりますが、私たち議員の立場からは、ある面では、市民のために、執行部と歩調を合わせてやっていかなければなりませんし、一方では、執行部を監視するということも

	<p>ございますし、その点では、どのように、この条例に係わっていくべきか、ある意味では、少し厳しくいかなければならないでしょうし・・・、その辺は、私もまだ考えがまとまっているというところではございませんので、あるいは、発言が一貫しないようなこともあろうかと思いますが、その辺はひとつ、ご理解をいただきたいと思います。</p> <p>委員 一般公募で委員になりました。以前は、高校の教員をしておりましたが、今は、NHKの??講座を担当したりしております。僕は、出身が中津で、地元のむらおこし等をやってきました。まったくピントはずれのことを言うかもしれませんが、それでも何か皆さんの参考にしていただけるものが有れば良いと思いますし、みんなでより良いものをつくれたらと思います。</p> <p>以前のアンケートでも意見を書かせていただきましたし、ずっと思っていたことなのですが、委員全体で議論することも必要でしょうけれど、やはり、まずは今回のように少人数で、しかも同じテーマについて話し合い、考えをまとめた上で、それを全体で持ち寄ってさらに議論を深めるということが、仮に時間はかかったとしても、良い方法なのではないかと思っています。</p> <p>座長 ところで、書記はどなたにお願いいたしましょうか?・・・</p> <p>委員 委員さんいかがですか?</p> <p>座長 そうですね、お願いできませんか?</p> <p>委員 わかりました。では、私がなんとか、記録させていただきます。</p> <p>ところで、ひとつ申し上げておきたいのは、通常、こういう委員会では、進行や議題について、すべて事務局としての市職員が事前に準備をして、そこに我々管理職の意向も反映されてくるのですが、今回は、一切そういうことはございませんで、まったく何もないところからスタートするということで、すべて委員さん方の総意にお任せしています。</p> <p>また、今まで基本条例ができていた自治体を見ると、規模の小さいところが多いんですね。やはり、意見の擦り合わせが容易であるからでしょうか。今、中核市のなかでは、2つしかできていません。ですから、非常に難しい作業ではありますが、ある意味では、非常にやりがいのある役目をいただいたと思っています。</p> <p>座長 ということは、もし、大分市でこれができれば、全国的なひとつのモデルになりうるということですね。</p> <p>委員 以前から、市民参加という言葉がありましたが、今は市民協働ということで、市民がいっしょになって組み立てをしよう、汗をかこうということに変わってきました。また、たいへん驚くのは、NPOやボランティア団体などが、まちづくりにおいて主導的な役割を果たすようになってきております。また、一部には以前の合併の際の流れや旧態依然としたものを引きずって</p>
--	---

	<p>る面もありますけれど、地方分権の流れのなかで地方も自立していかなければならない時代になってきていますので、そういう流れに遅れないような、むしろ先取りしていくような、議論をしていきたいと思っています。</p>
委員	<p>ただ、その割には、地方分権というのは、あまり進んでいないんですね。</p>
委員	<p>はい。まだ規制も多いですし、旧態依然としたものが残っていますね。例えば、夕張市みたいに倒産するというような状況になれば、市民も直接自分に負担がかかってくるから、本気になって議論をするのだらうと思うのですが、大分市の場合は、他都市の財政状況と比較すれば、ある程度安定した税収もあり、恵まれている方だとは思いますが、まだ職員にも甘えがあるのかなと、そのあたりは我々も反省すべき部分もあると思います。</p>
委員	<p>あるいは、そういう甘えもあるのかもしれませんが、市民もその辺の認識は足りないと思うんですね。確かに、他都市と比較すれば、財政状況は恵まれているのでしょうけど、であるがゆえに、議員を通じてでも、とにかく市に何か頼めば、やってくれるんだというような甘えの構造が市民の中にもあることは事実だと思います。ですから、何でも市にやってもらうというのではなくて、もうちょっと自分たちもいっしょにやるんだという意識を目覚めさせるものも、条例の中に盛り込んでいかないと、従来の姿勢から脱皮できないのではないかという気はしています。</p>
委員	<p>その点はですね、私も同感でですね、例えば、今の子どもにしても、何でも言いつばなしで、自由というのは責任や義務を伴うものだということを教えられていないんですね。そういう意識は、僕らにも、職員にも、議員にも、市民にもあると思うんですね。</p> <p>また、条例を作る過程において、もっと多くの市民の方の意見を取り入れる機会を設けないと、ごく一部の委員や職員だけで作ったと批判されることになるし、街中でもよく市民の不満の声を聞くことがあるのですが、そうした声をただの言いつばなしで終わらせるのではなくて、責任ある意見という形で取り上げる機会を設けておけば、そうした批判を受けることもないだろうと思います。</p>
座長	<p>先ほど、市長のマニフェストがあるから、あまりゆっくりもしてられないんだというお話もありましたが、本当は、私の感覚としては、もう少し市民の意見を聴くのにゆっくりと時間をかけて、つぶさに集めて回れば、しっかりとした地盤ができるのではないかと思うのと、案外、具体的な働きかけがあれば、それに乗ってくる市民の方は多いのではないかと。去年の国体のボランティアにしても、かなり成功したのではないかと思うんですね。実際に、ボランティアで参加した方からも、本当にやってよかったという声を聞くんですね。ですから、何かみんなそういう機会を待っているのではないかという気もしています。</p>

<p>委員</p>	<p>委員さんの意見ごもっともだと思います。実は、この委員会の委員さんを一般公募したときに、個人的には、あまり応募者がいないのではないかと考えていたのですが、実際、5名の予定に対して8名の応募者でした。そこで皆さんの書かれた論文が、どれもすばらしいものばかりだったので、最終的には、外部の方の立会いによる抽選をしながら決定をしたという経緯があります。応募に際しては、市役所としてできる限りの手を尽くして広くお知らせをしたつもりですが、それでも8名というのが現実です。現状では、条例に対する関心は、低いといわざるをえないと思います。</p> <p>ですから、これから議論をして条例を作っていく過程のなかで、何か市民と意見をやりとりする場を設ける方法を考えないと、大分市のまちづくりなどというのは、ここにいるメンバーだけで作れるような話ではありませんので、例えば、たたき台を作って地域に持って行ってみたいとか、アンケートを募ってみるとか、考えないといけませんし、この会議も常にオープンにして、また、可能な限り、事前に皆さんに日程をお知らせしておかねばならないと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>そうした機会を設けることは、絶対必要だと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>例えば、団体の代表の方にしても、この会議で出た意見を団体の中で議論してもらって、それをまた次の会議に返してもらうようなことも必要ではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>私は、途中から前の委員さんの後任で入ったので、以前の状況は分からない部分もありますが、この条例は、大分市の将来像を描くという意味合いもあるでしょうから、委員の構成も、もう少し若い人を入れた方が良いのではないかと思うのです。どうしても、我々の年代になると、固定観念が強いところがあるので、むしろ、我々にとっては非常識だと思われるような意見が出てくるような委員構成であっても良かったのでは、という気もします。</p>
<p>委員</p>	<p>ただ、物事を作るにあたって、我々公務員も特にそうですが、与えられたものをよりよくしろと言われれば、意見がたくさん出てくるのですが、一から作れと言われると、なかなか難しいんです。それは、多分若い人も同じだと思いますので、何か意見を言える土壌を作って、いかに多くの人と意見のやりとりをすることができるかを考えないといけません。そういう意味では、例えば、最近条例を作った都市に行き、苦労話を聞かせてもらうことなどもやってみてはどうかと思うのですが。</p> <p>実は、昨年由布市で住民自治基本条例というのが提案されて、これは県内で初の取り組みだったのですが、一度継続審議になったあと、次の議会で否決されました。そのような経緯も、聞いてみれば、参考になることがあるのではないかと考えています。聞くところによると、否決されたのは、「市民」の定義の部分で意見が分かれたためだとのこと。つまり、実際に住んでいる人を市民と捉えようとしたグループと、観光客などの外部からそこに来ている人も市民に含めて、自治に関する一定の権限を与えようとしたグループ</p>

	<p>ブがあって、結果的には、一票差で否決されたとのこと。一方、近隣の市町村で、最近、自治基本条例が制定された例としては、福岡県の筑後市などもあります。</p> <p>とにかく、何か議論の材料をもって地域に意見を聴きに行かないと、何も無い状態で「自治基本条例を作りますから、何か意見ををお願いします。」といっても、難しいと思います。おそらく、条例とは関係のない、市政に対する不満を述べたり、要望を訴えるような意見しか出ないのではないのでしょうか。</p>
委員	<p>たしかにそうだと思います。最低限、何らかのお膳立てというか、作ろうとしている自治基本条例の方向性を示してから、それに対する議論をしてもらわないと難しいでしょう。</p>
委員	<p>以前、市の主催でまちづくりに関するシンポジウムを開いたことがあり、500人近い参加者がありました。そのときの議論が非常に白熱しまして、市政に対する様々な意見も出ましたが、そのときのアンケートでもまちづくりに対する何らかのルールが必要だという人も9割以上居て、とにかく参加した職員も感動するくらい盛り上がった中で、自治基本条例を作ろうという機運の高まりがあって、市長もそれをマニフェストに盛り込んだという経緯があります。</p> <p>各市の話聞いてみると、条例を作った際のやり方は、千差万別ですが、いかにして市民の意見を取り入れるかということの重要性は、共通ではないかと思います。</p>
委員	<p>例えば、それこそ20年くらい前の子どもが書いた作文の入賞作などを見ると、既に少子高齢化などに対するきちんとした意見を述べたものもあるんです。ですから、若い人の意見を集める方法として、作文を募集してみることなどもいいかもしれませんね。子どもたちもかなり良い意見を持っていると思います。市民が集まって議論をして、意見をまとめようとしても、これだけの情報があふれた時代でみなさん様々な意見を持っていて、なかなか難しいですね。ですが、各世代のいろいろな職業の人から意見を聴くということは必要なのではないのでしょうか。例えば、子育てひとつにしても、昔とは周囲の環境も違いますし、過去に経験したことではあってもかなり忘れていくことも多いですから、実際に育児を行っている人や保育士の意見などを聴くことが大事だと思います。とにかく、市民アンケートなど何らかの方法で広く意見を聴いておかないと、一部の委員だけが作ったと思われる、条例に実効性がなくなると思います。</p>
座長	<p>そろそろ、1回目の討論時間のまとめをしたいと思います。例えば、自治基本条例に盛り込むべき三大項目・三本柱を挙げるとした場合、どのようなものが必要と思われますか。最初からすべてを議論することは不可能ですので、まずは、ある程度、的を絞って考えてみたいと思うのですが。</p>
委員	<p>私は、前文について、そこに何を盛り込むべきかという議論から始めても</p>

	<p>面白いのではないかと思います。あるいは、さきほど話のあった「市民」の定義について、考えてみるということでも良いと思いき、まずは、とっつきやすいところか始めては、いかがでしょうか。あまり難しく考えずに。</p> <p>とにかく、私の意見としては、アンケートなどで市民の意見を聴くことを重要視してほしい。</p>
座長	それは、条例の中で、市民からのアンケートを、どういう仕組みを市政や市民活動の中に根付かせるかという意味ですか。
委員	とにかく、市民の意見を聴く場を設けてほしいということです。
座長	市民の意見を聴くことが大事なので、そのためには、何を必要があるかというようなことを、条例のひとつの柱にすべきではないか、あるいは、それについて議論すべきではないかということですか。
委員	アンケートを含めて、広く意見を聴取すべきということでしょうね。ですから、要は、自治基本条例というのをこういう形で作ろうとしているんだという一つの方向性が出れば、例えば、皆さんの意見をアンケートなどでも聴取するし、あるいは、市民との直接の対話の中で、それぞれの団体、業界、それから幅広い年代層、そういう皆さん方と、当然地域も含めて、時間をかけてでも、理解を深めるための意見交換を行うことが必要である、というようなことが、この時間の一応の結論になるのではないかと、いう気がするのですが。
委員	そうですね。僕も、そう思いますね。
座長	それと、以前、委員アンケートをまとめた資料が出てましたけれど、私自身が割と重要だと思ったのは、地域コミュニティというものが、今崩壊寸前ですので、これをいかにして生き返らせるかということは、結構重い課題だということです。
委員	確かに、自治会組織などというのは、まさにそのような状態ですね。
座長	そのためには、やはり、それなりの人材やそのためのリーダーがどうしても必要なので、いかにして発掘するか、または養成するかということは、大きな課題ですが、コミュニティ再生というのは重要なテーマだと思います。
委員	とにかく、今、先生が言われたことに尽きますね。本当に、意見をまず聴きたいですね。この場にいる委員さんだけでなく、もっと広くですね。

委員	<p>はい。この委員会は、そのための組織であると思います。やはり、市民や各業界の意見を聴くにあたって、何かたたき台がないと、なかなか議論が起きてこない。「まちづくりの議論をしましょう。」などと、突然言っても無理でしょう。</p>
委員	<p>テーマは、自治会組織についてでも、何でもいいから、とにかく焦点を絞った議論から始めないと。</p>
	<p><全体発表></p>
委員	<p>あるいは、我々の意見が、正確に委員長に伝わっていなかったのかもしれませんが、少なくとも私は、また振り出しに戻って市民の意見を聴くところから始めようというのではなくて、我々の議論の中で出てきたテーマ、あるいは、そうしたテーマをいくつか積み重ねて我々なりの条例の案のようなものができたときに、それをひとつのたたき台にして、それに対してのアンケートも必要だろうし、あるいは、地域の人たちと意見交換をしながらそれを深めていくべきだということを申し上げたつもりです。</p>
委員	<p>そうですね。だから、僕が言ったのは、条例に対する意見を求めますということを中心にきちんと広報しておいた方がいいということだけです。</p>
委員	<p>例えば、条例のたたき台が、何条になるかはわかりませんが、条文の形で広く市民に示すことができれば、それについて、どの部分が良くないとか、どこを削るとか、何を加えるべきとか、いろいろ意見が出てくると思うので、そういった意見を幅広く、アンケートなり直接の議論のなかで集約して、さらにそれを反映した、より良い条例を作っていく、そういう過程が必要だという意味です。</p>
委員	<p>そうですね。それは、我々の共通意見だろうと思いますが、おそらく、私の発表の仕方がよろしくないために、誤解されたのでしょうか。</p>
座長	<p>だけど、行政と市民との真の対話というのは、意外と行われていないのではないのでしょうか。その点が、少し心配なんですね。確かに、お出かけ市長室とか、いろんな地域での説明会とかが行われてはいますが、果たして、そこに集まった市民が本当に満足しているのかというのは、どうなのでしょうか。</p>
委員	<p>それは、おっしゃるとおりかもしれません。また、私たち議員も、もう少し地域の人たちとコミュニケーションをとるなかで、きちんと是々非々の議論をし、その上で、良い意味での行政とのパイプ役になっていかなければな</p>

	らない。これは、我々の反省点だと思っています。
委員	市民との意見交換にも、いろいろな方法があると思います。先ほどのお出かけ市長室とか、市民からの手紙、市民からの政策提言とか、そのほかにも広く意見を聴くための方法は、いろいろと用意はしています。
座長	市民の方は、わざわざ紙に意見を書いて、それを市役所に送るような人は、あまりいないのではないのでしょうか。よほど身にこたえるようなことがあれば別でしょうけど。
委員	確かに、例えば、市民からの手紙の内容にしても、よくあるのは、窓口の職員が横柄だとかというようなものが多いようですね。もちろん、なかには建設的な意見もありますが。
委員	私ども議員の立場で、市民の方、地域との対話をするなかで、いわゆる、いいっ放しとでも言いましょか、自分自身の利益になればよいというような要求が多く、建設的な意見というのは、非常に少ない気がします。極端に言うと、自分の問題が解決しさえすれば、他の人のことは関係ないというようなことが、最近多くなってきましたね。
委員	それと、やはりこれだけ皆が多忙になっていますし、市民との意見交換において、理想的なやりとりをするというのは、非常に難しくなっていますね。その上、これだけ人口規模の大きい市でもありますから、そのなかで市民の意見をまとめていくというのは、大変な作業であろうと思いますけれども、僕が思うのは、常に市の何処かに、条例に対する意見を取り入れる窓口を作っておかないと、一部の委員が勝手に作ったと言われかねないし、やはり日ごろ耳にする市民のいろんな意見を考えると、それらが条例に役立つ意見であるかどうかは別として、少なくとも聴くための場は設けておかないと、後々怖い気がします。
座長	交流施設（？）など、今、わりと流行っているのではないのでしょうかね。
委員	子どもルームなど、かなり利用者がいます。
委員	そうした施設にアンケートなどを置いておくのもいいかもしれませんね。
委員	公民館なども良いと思います。
委員	それも、ある程度のたたき台ができてからのほうが、効果的でしょうね。
一同	そう、そう。
座長	先ほどお話のありましたシンポジウムには、わたしも参加させていただき

	<p>まして、確かに大変盛り上がっていましたが、そういうイベントなんかの場で、直接市に対して意見を言った人というのは、言ったという手ごたえのようなものが残るのではないかと思いますね。言われたとか、書かされたとかいうのではなくて。</p>
委員	<p>当時、事務局としては、果たして一定以上の来場者があるのだろうか、非常に心配して、事前に自治会長さん等にも地区への呼びかけをお願いしておりましたので、全てが自発的な参加というわけではないでしょうけれども、結果的に、あれだけ盛り上がったという意味では、成功と言えるのかもかもしれません。</p>
座長	<p>それと、以前、ギネスに挑戦したごみ拾いがありましたが、そのときの参加者の顔つきを見ると、皆非常に前向きな表情で来ている人が多かったように思います。子供連れの人なんかも多くて、教育的な効果もあったでしょうし。</p>
委員	<p>今、環境に対する関心は、非常に高いですね。歯磨きのときに水を出しながらやってたりすると、子どもに止められたりしますよ。</p>
座長	<p>そういう市民の気持ちや、市の行事を通じてひとつにまとまった機会を捉えて、それをもう一歩深めていくような取り組みというのが、何かあったらいいなと思いますが、国体のときのボランティアのあと、それについてのシンポジウムをやって、経験者にいろいろな意見を出してもらおうとか。</p>
委員	<p>国体のボランティアについては、あれだけで終わらせるのはもったいないということで、その皆さんに再度お願いをして、めじろんサポーターという名称で組織を作って、いろんな市のイベントに参加してもらっています。</p>
座長	<p>なるほど。そういう働きかけがあると、市民というのは、乗りやすいわけですね。</p>
委員	<p>ただし、高齢者が多いということで、一定の制約はありますけれども。ですから、若い人をいかにして引き込むかというのが、課題といえるでしょうが、今、三交替だとか、長時間労働とか、様々な就労形態があって、簡単に若い人の参加を呼びかける訳にもいきません。</p>
座長	<p>最近、中高生なんかも、河川敷のごみ拾いを学校の行事としてやってたりしますよね。そういう人たちも、そうしたボランティア集団になりうる要素はあるのではないのでしょうかね。もちろん、勉強も忙しいでしょうから、それに差し支えてもいけません。</p>
委員	<p>社会奉仕活動というのは、今非常に関心が高いですし、重要なことだと思いますね。それと、大分の場合は大きな教育問題もありましたから、なおさ</p>

	<p>ら良い条例を作らなければならないと思いますね。</p>
座長	<p>行政が、先ほどのイベントにしても国体後のボランティア組織を作るにしても、全部仕掛けるわけですよ。けども、市が仕掛けたようには見せないで、市民が自発的に動いた形にしてあげれば、参加した市民は余計に張り切るわけですよ。</p>
委員	<p>主役は市民であり、行政は脇役に回ってれば良いわけですね。</p>
座長	<p>私の知人の保健所のある職員が、地域で働きかけをして市民の組織を立ち上げたらいいですよ。そしたら、何かの記事に、保健所の力を借りずに、すべて自分たちで自発的にやったというようなことを書いてたりしまして、保健所の職員の方は、あれだけ自分たちが動いたからできたのにと、ぼやいてましたが。でも、本当は、ぼやくどころか、大成功だと喜ぶべきところじゃないかと。要するに、行政の撒いた種が無駄にならないで、市民がその気になってくれたという意味では、非常に成功した例だと思ったんです。</p>
委員	<p>そういう意味では、環境問題なども市民にとって、密接な話ですから、今はごみ拾い運動なんかは、非常に賛同を得られる話になっていますね。</p>
委員	<p>例えるなら、荒れた野原の草を刈って耕すところまでは行政がしても、そこに種をまいて水をやるのは、市民に任せればいいですね。行政の担当からすれば、一番きついところを自分たちがやったのと思うかも知れないが、それも行政の仕事のうちではないかと思います。</p>
座長	<p>市民というのは、そうした内幕は分からなくても、何か意味のあることをやらしてもらえたということで、素直に喜んで満足しますよ。</p>
委員	<p>ですから、自治基本条例の策定においても、ある意味、そうした、行政が、苦労して草を刈って、荒れた畑を耕す必要があるのかもしれませんが。そのあとで、市民が、種をまいて、水をやって、花を咲かせるということを、いかにやりやすい環境を作るかということが役割だと思います。</p>
委員	<p>そこで、市民の方に、条例に盛り込む何らかの柱、つまり、今後大分市がどうあるべきか、今後何をすべきかというテーマを設定して、それをどのように盛り込んでいくかということを示していただかないと、どうしても、よその市の既存の条例と似たようなものになりがちです。</p>
委員	<p>そうですね。先ほど出た三本柱、もちろん、四本でも、場合によっては二本でもかまわないのですが。</p>
委員	<p>この基本条例に、何もかも盛り込む必要はないと思うんですね。むしろ、本当に必要ないいくつかの事柄さえ盛り込めば、条例だからといって、形式的</p>

	<p>にこれを謳わなければいけないとかいうことではなくて、本当に大事な柱だけを示すということでもいいのではないかと、個人的には思うのですが。</p>
委員	<p>あまり形式にとらわれすぎると、結局とっつきにくい条例になってしまうのかもしれないね。</p>
委員	<p>私もあまり難しい条文ではなく、分かりやすいものがいいと思います。</p> <p>それと、この条例策定に係わる市の職員についてですが、市役所は、各担当部署においてそれぞれいろいろな専門知識を持っているでしょうから、それを条例に活かすためには、多くの職員からの様々な意見を聴いて参考にすべきだと思います。一部の人に偏るのではなくて、多くの職員の意見を参考にすればよいと思います。</p> <p>市長にも、あまりこの会には参加していただいていませんが、非常に見識の高い方ですから、忙しいでしょうけども、できるだけ議論の中に入っただいて、意見をいただきたいと思うのですが。</p>
委員	<p>確かに、市長は市政の舵取り役でありますし、いろいろな情報も持っていますから、議論に入ってもらうこともひとつの良い方法かもしれませんね。</p>
委員	<p>職員の意見を集約するためのアンケートをとるということも、意見を反映させるためのひとつの方法かも知れませんね。とにかく、いろいろな意見を聴いて知識をもらわないと、もったいないですよ。どんな意見でもいいから、まずは集めてみて、それから必要なものだけを残せばよいと思うのですが。</p>
座長	<p>今日のように、少人数のグループに分けて議論してみて、かなり話が進展したような気がしますね。あまり人数が多すぎると、発言もしにくいですからね。</p>
委員	<p>同じことを発言するにしても、話し方にも気を使ってしまうですね。</p>
委員	<p>先ほどもお話しましたが、我々職員も委員としての立場で参加するとなると非常に気を使う面がありまして、当初の案としては、委員としては参加せずに、あくまで事務局として参加して、行政の代表として市民の代表である委員さんと意見交換をするという位置づけのほうが良いのではないかという意見もありました。</p>
座長	<p>しかし、職員の方にも委員として、直接議論に入ってもらったほうが、市民の感覚をより理解してもらえるような気がします。どうしても行政と民間では、感覚の違いがあると思いますから。</p> <p>以上。</p>